

府相公民館に太陽光発電システムとリチウムイオン蓄電池を設置しました

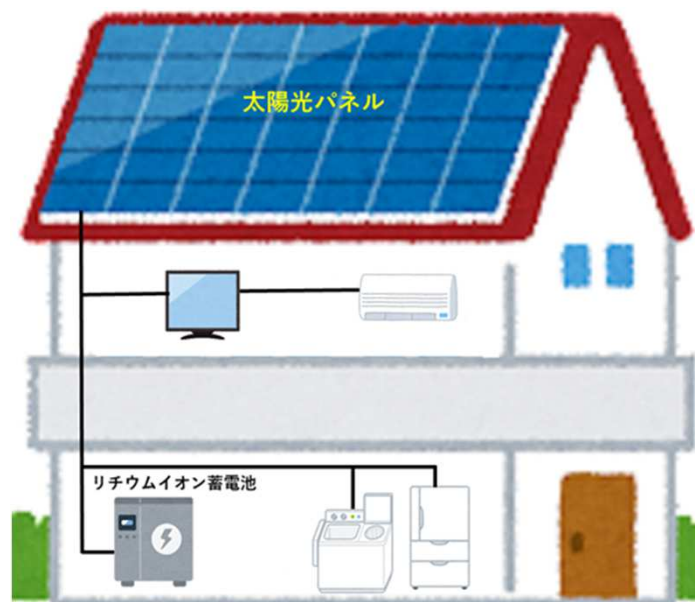
太陽光発電とは？

太陽光発電は、太陽の光エネルギーを太陽電池により直接電気に変換する発電方法です。住宅のみならず、使用していない土地への設置も進んでいます。

蓄電池とは？

充電して電気を貯めておくことができ、必要な時に電気機器に電気を供給することができる二次電池・バッテリーのことを蓄電池といいます。

自然災害への備えなどにより近年では需要が高まっています。



府相公民館では発電した電気を使用しています



太陽光発電システム(5.2kW)

リチウムイオン蓄電池(5.6kWh)

太陽光発電システムで発電した電気は府相公民館内の照明などで消費されます。余った電気は蓄電池に充電し、さらに余剰が発生する場合は竹島小学校へ送られ、小学校内で消費されます。蓄電池に蓄えた電気は夕方から夜に使用して、電力会社からの電気をできるだけ減らし、電気の自家消費を目指します。

<なぜ太陽光発電が必要なのか>

地球環境への配慮

大量の二酸化炭素(CO₂)が排出されることによる地球温暖化は、解決しなくてはならない重要な問題です。地球温暖化による影響は、北極や南極の氷が解けるなどの極地の変化、海水温度上昇による海面の上昇や海岸線の浸食、これまでは想像もできなかった異常気象、生態系の変化などが指摘されています。CO₂排出の大きな要因となっているのが、火力発電による石油や石炭、天然ガスなど化石燃料の燃焼です。化石燃料エネルギーから脱却し、CO₂を排出しない再生可能エネルギーを推進することが国際的にも求められています。

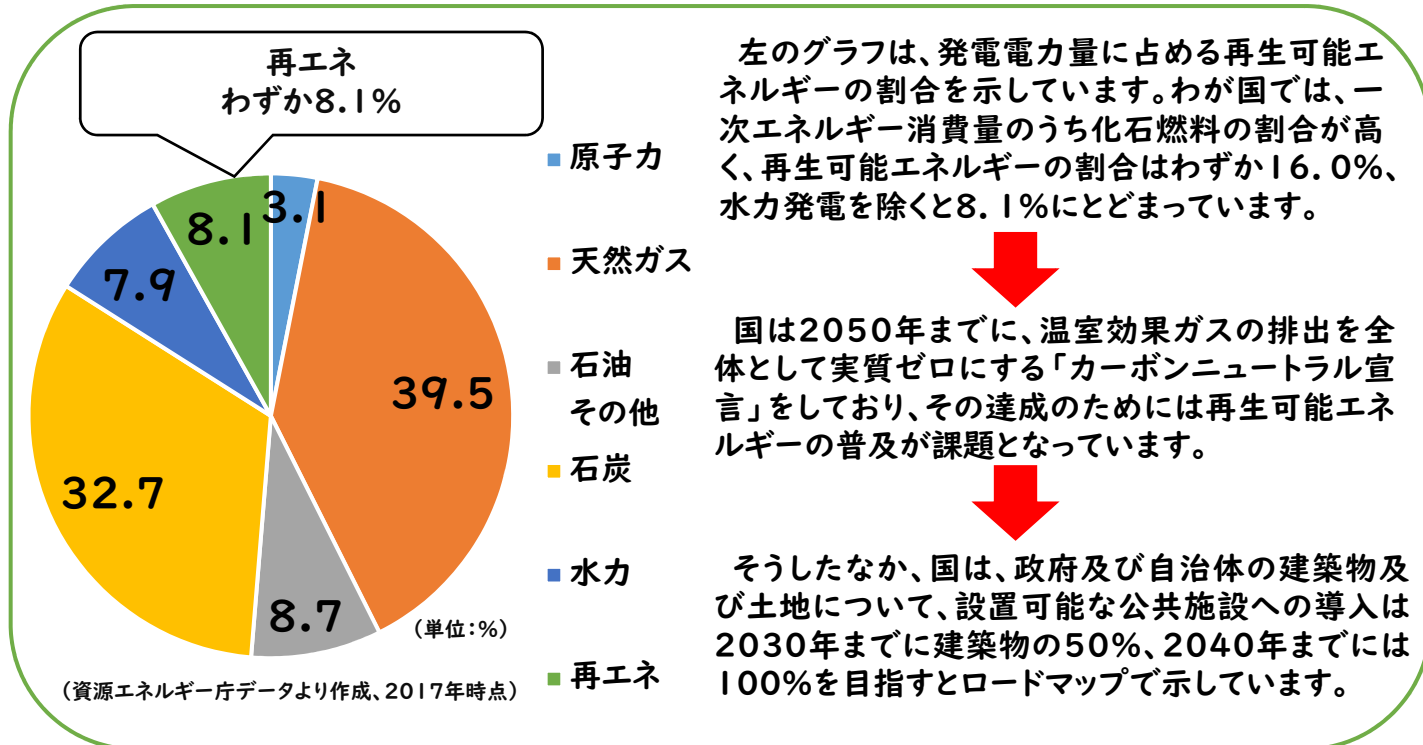
地球温暖化とは・・・

地球の大気に含まれるCO₂などのガスは、地表から放出されるエネルギーの一部と、太陽からエネルギーを受け取り、大気は受け取ったエネルギーの一部を地表に向けて放出しています。そのため、地表は太陽と大気からのエネルギーを受け取ることになり、大気が温室のように地球を温めていることを温室効果といいます。

近年は産業活動が活発化するにつれ、温室効果のあるガスが大気中に大量に排出され、気温が急激に上昇し始めています。これが地球温暖化です。

世界規模で熱波や干ばつ、森林火災、洪水、大型のハリケーン・サイクロン、高潮などの極端な現象が頻発しています。日本においても、動植物の生息域の北上や、大雨や猛暑日、熱帯夜の観測頻度が増加する傾向がみられています。

2015年に採択されたパリ協定では、途上国を含むすべての国が温室効果ガス排出量の削減に取り組み、世界の平均気温上昇を工業化以前から2℃以内に抑えることを目指しています。



蒲郡市の今後の取り組み

蒲郡市では、令和3年3月に「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しており、その取り組みのひとつに再生可能エネルギーの導入促進を掲げています。市ではこれまでも市役所本庁舎や中学校などへ太陽光発電システムを導入していますが、引き続き公共施設への導入を計画的にすすめてまいります。